



Rotary Weekly



広島空港ロータリークラブ週報

2023年2月16日発行

会長 河井一郎 / 副会長 小島勘次 / 幹事 谷本佳弘 / SAA 兼田昌紀

事務局 三原市本郷南6丁目3-26番地 三原臨空商工会 2階

TEL 0848-86-0986 ・ FAX 0848-86-0992 ・ E-mail h.kukorc@vega.ocn.ne.jp

例会会場 広島エアポートホテル TEL 0848-60-8111

2022-23年度

国際ロータリーテーマ

2月 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28
例会 休会 休会 3クラブ合同例会 休会

本日のプログラム (2月16日)

3クラブ合同例会

(18:00~20:00 ホテル大広苑)

次のプログラム (3月1日)

谷本 佳弘 会員

「口腔がん 早期発見へ！」

第1254回 2023年2月1日 例会記録

点 鐘 河井会長

国歌斉唱 ロータリーソング「四つのテスト」

出席報告

	会員数 シニア会員	出席者	メイク	欠席 (免除)	出席率
本日 (2/1)	27 1	20 0	0	3 4	86.96
メイク					

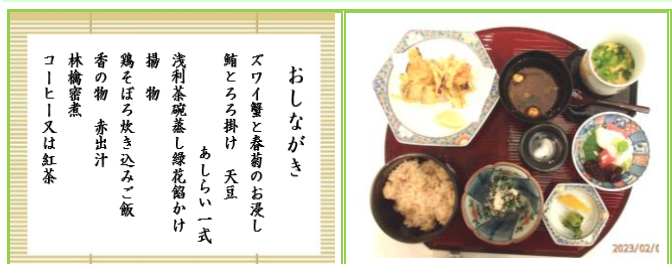
藤川清 会員 古希御祝 記念品贈呈



(広島エアポートホテル お食事券)

ありがとうございます。こうして皆様に古希のお祝いをしていただき、本当に有難く思います。

食事時間



おしながき

ズワイ蟹と春菊のお浸し

鯛とろろ掛け 天豆 あしらひ一式

浅利茶碗蒸し 緑花箱かけ

揚物

鶏そぼろ炊き込みご飯

香の物 赤出汁

林檎蜜煮

コーヒー又は紅茶

会長からひと言

藤川さん、古希を迎えられ誠におめでとうございます。私が申すのもおこがましいのですが、まだまだお若いので、これからも人生楽しんでお過ごしいただきたいと存じます。



さて、先週の例会では途中退出させていただき申し訳ありませんでした。三原市内から大和久井エリア、比較的暖かい沿岸部でも凍結破損に見舞われて右往左往いたしました。しかし思ったほどの件数ではなかったのが大変助かりましたが、思うにメディアにて放映、各市町村からラインやメールなどツールを利用した注意喚起が、功を奏したのではと感じました。日が暮れて久井町から帰り道、軽トラックが滑りまくったのは冷や汗ものでした。皆さんも運転には十分気を付けて下さい。

幹事報告

鶴田幸彦 副幹事

- 《配布物》R日本財団より確定申告用寄付金領収証 週報1253号・抜萃のつづり
- ロータリーの友・ガバナー月信2月分
- 《回覧》防府RCより創立65周年記念誌
- 今後の例会・ガバナー杯・沼田川クリーンキャンペーン出欠表
- 《お知らせ》2月ロータリーレート130円(1月132円)
- 2月16日の3クラブ合同例会は、18時から。ホテル大広苑で開催されます。後日事務局より乗車時間をお知らせします。

報告事項(楠部会員)

東広島地区医師会が、続けてきたがん患者と家族の集いの場「心の駅舎」という活動があり、毎月1回東広島のくららで集いを開いています。東広島市役所も協力してくれ、だんだん支援者が増えています。当クラブの鶴田さんの会社も、支援の輪に加わってくださっています。

この心の駅舎がこの度、読売光と愛の事業団から助成を受けることになり、1月31日の新聞記事に出ました。とてもよく書かれた記事なので、ぜひ皆様にご紹介したいと思い、コピーを配布させていただきます。

この活動は、東広島地区医師会の地域連携室「あざれあ」の三上室長が、情熱をそそいで育て、発展させて来ました。6年前に一度当クラブの卓話に来てもらったことがあります。この「あざれあ」はこの他、医療介護連携を進めるための多くの事業を10年間続けてきており、実は東広島市役所と医師会をつなぐ大きな力を発揮しています。その事に気づいている人が少ないのが、私にとってはとても残念です。その意味でこの度の読売の助成金の記事をととても嬉しく思いました。市議会の先生方にも是非「あざれあ」の力に注目していただきたいと思ひます。



2023年(令和5年)1月31日(火曜日)

読 売

新 聞

西 日

(第3種郵便物認可)

「くらのの駅舎」を助成

読売光と愛の事業団が実施する「がん患者在宅療養支援事業」の助成先に、県内では東広島市の「がん患者さん・家族・支援者のつどい くらのの駅舎」が選ばれた。約10年間、がん患者と家族に寄り添い、前向きに生きる環境を作ってきた。

(石田仁史)

助成事業は2020年度に始まり、今年度は全国の計7団体に決定。「くらのの駅舎」には50万円が助成される。「くらのの駅舎」は、東広島地区医師会が「患者と家族の集いの場」と2012年12月に活動を開始したが始まり。当初は保健所と共同で運営していたが、その後、市との共同運営に移行。市の資

光と愛の事業団

金支援で保健師や薬剤師らと交え、市中部の東広島芸術文化ホール「くらら」で、月1回の交流会やイベントなどを続けてきた。団体名の「くらのの駅舎」が命名された理由について、医療的支援を担う同市の「高橋ホームクリニック」院長の高橋宏幸さん(60)は「治療の長い『旅』の途中でちよつと



「ケア帽子」を手作りする「くらのの駅舎」のメンバー(東広島市で)

東広島にがん患者交流の場

立ち寄り、重い荷物を下ろして、また次へ向かう。そんな場になればと団体の創設者が名付けた」と語る。「くらら」では葛藤を抱えながら悩みや苦しみを共有する患者と家族が触れ合い、語り合う場を設けてきた。26日に行った交流会には10家族以上が参加。全員が明るく近況を話し合い、笑いながら歓談した。同医師会・地域連携室「あざれあ」の室長、三上雅美さん(62)は「友人と一緒に来ると来れなかった人が、交流するうちに一人でも参加するようになった。花飾りやタペストリーを寄せてくれる人もおり、今後も笑顔が絶えない場になれば」と話す。助成金は、抗がん剤治療で頭髪の脱毛に苦しむ人に向けた「ケア帽子」の作製や、がん治療の体験談をまとめた冊子などの印刷経費などに充てる。「くらのの駅舎」代表で同市の三木医院院長、三木乃慈子さん(56)は「支援者も増えており、患者や家族が心を共有できる場として、長く続けていきたい」と話している。



東広島地区医師会 地域連携室あざれあ 室長 三上雅美様

「がんと共に生きる」～がん患者・家族・支援者のつどい「こころの駅舎」の活動を通して～

プ ロ ロ ー グ

最初の物語はあるがん患者の家族の（実は私の家族の話ですが）物語です。

およそ25年前の12月12日、父は「検査入院をしてくるから、かあさんのことは頼んだぞ。」と言って、自分で車を運転して病院に入院しました。しかし翌日医師からは「大切なお話がありますので、ご家族全員集まってください。」と連絡がありました。東京にいる兄も帰広し、医師の話を知りました。その時医師から「肝臓がん末期です。年が越せるかどうかわかりません。」と告げられた時は、あまりにも突然で全員声が出ませんでした。

それでも家に帰ると兄は冷静に「お父さんが書きかけていた自分史があったね。それをみんなで完成させよう。心残りのないようにね。」と言って、早速準備を始めました。ちょうど勤務する大学が休みでしたので、兄はその日から実家に泊まり込み、毎日病院に通って口述筆記を始めました。そして完成したものがこの「我が半世紀—折々思い出すままに—」です。

日に日に衰弱する父を実感しながら、何とか完成するまでは・・・と祈るような気持ちでおりました。願いが叶って自分史が完成したのが1月17日。父が旅立ったのが21日です。出来上がった本を手にとって、父が1ページずつ満足そうにめくっていた姿を思い出します。入院から40日間の出来事でした。

父の自分史は家族の合作です。父の語ることばを兄が編集し、家族全員が父に送る言葉も添えました。そして絵に自信のある、姉や姉の次男が挿絵を担当しました。今思えば、家族が一つになるきっかけを最後に父が作ってくれたのかもしれない。

そして父の葬儀の日に「おじいちゃんのように病気で亡くなる人をなくすために、僕はお医者様になる。」と泣きじゃくっていた、兄の長男はその言葉通り、その後医学の道に進み、現在研究者として歩み続けています。また、挿絵を担当してくれた姉の次男は、後に美術の道に進み、現在木彫作家として活動しています。そして、父の病気に気づけず、入院中も何もできない事に寂しさを感じていた私は、その後介護・福祉の勉強を続け、今に至っています。

父は40日という短い間に、残された者たちに将来につながる大切な宝物を残してくれました。

私は今でも火葬場で一羽の鳥が飛びたったのをよく覚えています。その時「父は鳥になった」と私には思えたのです。時々鳥になった父が空から見守ってくれている。そんな気がすることがあります。



がん患者・ご家族・支援者のつどい「こころの駅舎」

東広島地区医師会では平成25年度から、がん患者・ご家族・支援者に、集いの場を提供するために「こころの駅舎」を年3回開催していました。この活動が評価され、今年度からは東広島市の「在宅医療・介護連携推進事業」として認められ、毎月開催することができるようになりました。

私はこの「こころの駅舎」という名称が気に入っています。「がん患者の集い」というよりもずっと温かみがあると思います。心が疲れた時に、ふっと立ち寄り、リフレッシュしてまた次の駅まで旅をする。そんな駅舎のような存在になれるように、気配りしながらがん患者さんやご家族に接しています。

今年度からは、毎月第4木曜日に「くらら」で「こころの駅舎」を開催しています。仕事を持つがん患者さんも立ち寄りやすいように、夕方6時まで時間を延長しました。また必ず医師会の先生方も来てくださり、患者さんの相談に応じてください。

患者さん同士が情報交換をしたり、気がかりなことを先生に相談したり、年3回の講演会で新たな知識を得たり、参加者のご自分の都合に合わせて「こころの駅舎」を活用されています。

重い手荷物はこちらの駅舎にあずけ
楽しい時間というおみやげをカバンに詰めて
また次の駅舎目指して旅を続けよう



鶴田秀樹 会長エレクト

「RLI (ロータリー・リーダーシップ研究会) パート1に参加して」



この度のRLI研修会では、DL (ディスカッションリーダー)の方が、「答えではなく、自由にディスカッションしてください。」としきりに言われてましたので、少し肩の荷がおりました。

少し皆さんのご意見も聞かせて頂きたいと思しますので、何人かの方を指名させていただきます。お考えいただいて、「お答え」ではなく、簡単にディスカッションしてもらいたいと思ひます。

● DL (ディスカッションリーダー) ◆ 鶴田秀樹会長エレクト ■ 会員

1時限目 ロータリーにおけるリーダーシップ

- ◆ 私自身これに関して、もう少し考えたいと思っています。ディスカッションして頂けませんか？
- 正しい答えは、私はないと思ひます。例えば我がクラブであれば、四角四面にメンバーをくくったり、強制したりすることはありません。とにかく融和を大切に皆で例会を楽しむというクラブ運営をされていると私感じていますし、その中に入れてもらっていると思ひています。メンバー1人1人とコミュニケーションをしっかりとって仲良く、例えば欠席をしても問い詰めるわけでもなく、出席されればいつもと同じ仲間になっているので、我がクラブは良いと私は感じています。
- ロータリーのリーダーは、毎年変わるので、せつかくリーダーになられる訳ですから、1年間しっかりあじわってください。失敗もあるかと思ひますが、それが結果、会社においても良い経験値になると思ひます。
- 自分が楽しくなることが一番大事ではないか。自分が楽しくなければ会員の皆さんも楽しくない。

2時限目 私のロータリー世界

- ◆ 世界を520地区に分け、日本は34地区に区分けされ、2247のクラブがあります。
【世界のクラブ数 36,697, 会員総数 1,195,863人(2022.12.8国際ロータリー公式発表)】
- あなたは入会前と入会后でロータリーに対する印象は変わりましたか？どのように変わりましたか？
- 入会前は、レベルが高く感じましたが、入会してアットホームで皆さん優しく親しみやすいと感じました。
- ◆ まさしく私もそのように感じ、同じ事をお話ししました。

3時限目 倫理 職業奉仕

- ◆ 私の職業柄個人的なことを話してきました。今現在10年に一度といわれている大寒波。そこに電気の故障、トラブルが発生したら命にかかわる事だと思ひています。何とかして一時的だとしても修理に行くこと。また、総合技術高等学校にて、講師の依頼が2年あり高校生に指導してきた事をお話ししました。

4時限目 R財団 私たちの財団

- 1917年当時のロータリー会長アーチクラフ氏が「世界で良いことをするため」の基金の設置を提案。26ドル50セントの最初の寄付が全世界で多くの人の人生を変える財団へと発展。
- 自分の寄付額確認方法…マイロータリーに登録→ロータリー財団のページ→各種レポート→寄付レポート

5時限目 会員の参加を促す

- ◆ 例会のやり方や、変化の仕方について私たちの一年間の行事(各種例会)と、外部卓話について話しました。

6時限目 奉仕プロジェクトを創造する

- なぜ広島空港RCさんは毎年地区補助金申請をして頂けるのですか。今年もぜひ申請をして下さい。
- ◆ 広島空港RCは、現在27名の少人数クラブで、クラブ独自では大きな奉仕活動は出来ない為、地区補助金を活用し、地域で必要とされる社会奉仕を会員全員で考えて、これまで21回補助金をいただきました。本年度の決定通知書に、ガバナー寄付目標について、必ずご協力をお願いします。と書かれていましたので、本年度は全てクリアしましたが、毎年となると難しく、今年度理事会にて毎年の申請ではなく、数年に1度申請するという事が決まりました。
奉仕活動については、他クラブの方々も公園清掃、海岸線の清掃、献血など、行っているようです。
- 寄付目標については、あまり考えなくていいですよ。但し補助金申請の数が多く、順番になると寄付金の額が関係する場合もありますと教えて頂きました。クラウドファンディングもうまく活用してみたらどうでしょうか。とのお話しがありました。